





山州名跡志卷之十八目錄

殿舎部

祭裏

常御殿

内侍所

左近櫻

古跡

縣宮

桃園池

京極殿

北邊亭

紫宸殿

御學問所

陳座

右近橋

東北院

縣井

一條院

鷹司殿

花山院

清凉殿

小御所

日花門

二條金城

西北院

世尊寺

染殿

高倉殿

小一條

殿上間

記祿所

月花門

山井

井戸殿

桃園

清和院

棗院

枇杷殿

山州名跡志卷之十八

菅原院	櫻町	石井	内記井
滋野井	本院	高陽院	常盤井
近院	小松殿	小野殿	陽成院
冷泉院	小二條	鴨院	町尻殿
東三條	關院	二條院	二條宮
堀河殿	竹三條	押小路殿	山井殿
中西殿	大西殿	御子左	高松殿
蚊松殿	梅園	御倉町	鬼殿
四條宮	西院	南院	天神御所
紅梅殿	五條院	河原院	池亭
千種殿	北院	鈎殿院	中六條院

山州名跡志卷之十八目錄

中院	南院	六條院	桂宮
亭子院	弘誓院	九條殿	
洛外西邊 <small>自山麓至南</small>	宇多院	西院	西三條
西宮	大學寮	勸學院	井學院
淳和院	學館院	弘文院	鴻臚館
施藥院	羅城門		
歌人并高名亭 <small>略目錄已下亦同</small>			公卿亭
法皇后妃御所	足利家將軍館		武臣第

山州名跡志卷之十八目錄終

山州名跡志卷之十八

三三三

院御所棟ノ榎ヲウツ 御殿ニツノ棟ト南門ト車寄五御
所ノ棟ニテウツナリ云々又云信長公天正五年三月四
日。内裏ノ築地京中ノ町人コレヲツク云云。按之是則造營ノ
始リ歟。自是サキ元龜四年四月四日。爲軍信長公北
京ヲ放火アリ。此時内裏炎上云云。正親町院御即位ノ
時。世不靜。故ニ 朝廷勘省ナリ。依テ 御即位ノ義以
難辨。毛利元就其料ヲ奉進ス。是故ニ元就ヲ被叙大膳
大夫。桐蔭ノ御紋ヲ賜フ。又元就 内裏ヲ造營ス。此時
土御門ノ地ヨリ移ス者歟。今ノ 御所外郭百一間。南
北百十一間。紫宸殿。清凉殿。殿上。常御殿。御學問所。
小御所 内侍所等巍々ナリ

○紫宸殿 南面 檜皮膏東西十一間半。南北八間。板
敷。四方縁欄干。南面段階。東西南面戸。鈎黒格子。藪
賢聖障子。絹張

○清凉殿 南面 在紫宸殿西 東西十一間。南北九
間半。四方縁欄干。東南鈎格子。藪

○殿上間 南面 在清凉西北 東西十間。南北五間。
南面段階 小板敷 在同殿

○常御殿 在紫宸北東 東西十三間半。南北十間半。
夜御殿 晝御座 在此殿

○御學問所 在右殿北 東西六間。南北十四間半。
○小御所 ○記祿所 載圖流布于世

○内侍所 東面 在紫宸東去十四五間

○陳座 東面 在紫宸西傍

○日花門 在內侍所南 ○月花門 在陳座南

○左近櫻 右近橋 在紫宸殿前

○二條金城 在二條堀河西

靜平洪基 威光無邊 柱礎如磐石之固 仰望如泰山之安

將軍家 御上洛御所

天子行幸玉臺 傳云上古此地在今泉院

古跡

已下所載出拾芥抄 所註所引和歌愚案

東北院 一條南京極東 上東門院御所云 愚案

一條南上 一條通南方ニシテ京極通ヨリ東ニ至ル所ト

云義ナル歟已下雀之上古六自一條至九條大路皆

東八鴨川原ニ通ズル也如今八中御門通ヨリ今出河大

路ニ至テ鳥丸ヨリ東方 禁裡ノ郭ニシテ此條塞シリ

或書曰此院ヲ号東北院法成寺ヨリ當東北ノ謂也

自一條二町南近衛北方京極東ニリ 法成寺載寺院部

○上東門院 一條院中官 後一條院 後朱雀院 御母

續後撰集 皇太后官彰子 御堂關白道長公女

系ハシラシト云後深草を以てカトクヨリ院ノ名ハ堂云跡

西北院 一條南京極西 愚按是又在法成寺西北謂歌

井戸殿

一條北東洞院西角

号縣井在縣官故也

大和物語

大膳野公平乃女をわづれ井戸とよとて

任りしをわづれとていふのまよおねのゆとひてさういふ

三よあそりうへはあそりうのあそりうまごころけ

ふけふかんぞどめりあそりうにさういふさういふ後

やりま

し世よりくてもやめぬあね乃洞院をさういふて

縣官

新續古今集

中系附之

後集

縣井

詠和歌

後集

世尊寺

一條北大宮西本小路東無路南

伊尹攝政家

本主貞純親王云此所案一條通大宮至西所北

方秋本小路不會疑々大宮東秋無路ハ無車小路

落字秋同街在一條北

伊尹公正二位右大臣師輔公男母從四位上武

藏守經邦女攝政太政大臣從一位天祿三年十

月二日薨贈正一位謚謙德公

貞純親王清和天皇第六男上總常陸大守中務

兵部卿正四下号桃園母中務大輔神祇伯棟貞文

宇治拾遺今む世々寺とてし世々大納を

明神通路云云後一條後冷泉被加南一町云云
愚按。匡衡宅上。此所始。匡衡宅上ノ謂致。紀伊島上。
此所ニ紀伊、寫ヲ移ス致。賀茂神ノ通路上。彼神影向。
玉レ致。本紀未考。

鷹司殿

土御門南。万里小路東。或富小路。從一位倫子家。

倫子

上東門院母公。道長公室。左大臣雅信公女。

高倉殿

土御門南。東洞院西一町。昭宣公家云云

又入道大相國家

又左大臣仲平公家。

昭宣公

太政大臣攝政從一位基經公謚

棗院

土御門南。東洞院西二町。左大臣家云云

愚案。貞信公致。

如大相致。一於仲平公謚

北邊亭

土御門北西。洞院西。左大臣源信公家。

信公

傳曰。嵯峨帝第十子。母廣井氏。正二位。

右大臣号。池邊大臣。

拾芥。一書。池作地。

○近衛通

花山院

近衛南東。洞院東一町。本名東一條云云

式部卿貞保親王家。貞信公傳領之。住。小一條之開。

號之東家九條殿。令給外。

冷泉院此所立坊。花山院傳領之。

右傍カクテニミレ丸ヲナ

處。文義不分明。展傳書寫。誤致。

貞保親王。

清和帝御子。母太皇太后高子。二品式。

貞部卿号。桂親王。

如大相忠平公謚

貞信公 関白太政大臣忠平公諡号也

○著聞集云貞信公案をせしむる。式部卿親王のあま
ふと事乃木ありと云。と云云。花山院乃木對のあれ事乃木ありと極なきひり。
これよりしてと云云。本を有るさる本にさるあり。花山院
大政大臣乃三位中納のとき。法性寺を移ぬすく六條坊
門舊の清亭あり。去清門乃内裏にまつるせまふり。と云云。
東入洞院の便修されむ。おけ大徳と云と云。移るふと云。
いふもさる移りしもの。あつらひ大徳をさるせまふり。
と云。東洞院のあれ四足と云。愚云四足ハ
四足ノ門也。と云。其移門乃木入して
と云。車乃簾をあらうと云。くあつらひと云。これ子細と云。つひ

中らまを。時の持政と信中。相をうやまふふいあつらひ。貞に
貞信と乃まさうと云。つら極まらるる本あり。がれは礼を
いふなり。け事。高極大をつらさしにあり。さる分明也と
を伴らまらる。又他の中。信よりこれ本あり。貞保親王本
乃下乃。此井よ。さるすひして。ほひよあえとぬせまふり。
又四面の築地の上よ。の瞿曇をひりと極らまらる。花
のさるに。つらうと云。ぬぐよ。て。け。さ。ぬ。ひ。は。ね。へ。ふ。は。似
たり。是に。より。て。花。山。の。号。の。ち。ま。ら。る。ほ。と。よ。や。 卷十九

小一條 近衛南東洞院西 師尹公家一云山吹殿
清和天皇誕生所。貞信公家 基經公男攝政關白
平公諡贈正一 從一位太政大臣忠
惟房小一條

師尹公 貞信公子。母右大臣源能有公文。從一位左大臣

枇杷殿 近衛南室町東 或鷹司南東洞院西一町
左大臣仲平公宅昭宣公家 仲平昭宣公子母人康
親王女左大臣正二位号枇杷大臣

○勘解由小路通

菅原院 勘解由通烏丸西一町 管領贈太政大臣

御所或云參議是善家也。當時号歡喜光寺北野祭
日神氏來。此所取枇杷供神云云 愚云贈太政大臣ハ
管丞相ヲ申ナリ。今菅大臣社地是也

○中御門通

櫻町 中御門北方里小路東 南庭多櫻樹故号云

歌仙貫之家 按所載無名抄右異也如左

あつ人のを愛まぐとらるるをいふ家乃はるかて乃小治
ころる北とを乃小治よりいひつるの角也云々
拾遺集 西より隣よりいふかくを隣よりありと申す云々

いひまをいふ云々
梅乃花自いのはるる云々
三條
之夏

梅もささ春をうとして咲物をまの河原のいふはるる云々

石井 中御門南東洞院東 重信公家

本重信公 号六條右大臣 敦實親王子

内記井 中御門南東洞院東 惡所云号院井云云

滋野井 中御門北西洞院西 滋野貞主卿家

本院 中御門北堀河東一町 左大臣時平家

大和物語 泉乃大御を危の行わいとれよまうてまうりらる。

あまのほりてまうりらる。あひてあまのほりてまうりらる。

あまのほりてまうりらる。あひてあまのほりてまうりらる。

あまのほりてまうりらる。あひてあまのほりてまうりらる。

あまのほりてまうりらる。あひてあまのほりてまうりらる。

あまのほりてまうりらる。あひてあまのほりてまうりらる。

あまのほりてまうりらる。あひてあまのほりてまうりらる。

あまのほりてまうりらる。あひてあまのほりてまうりらる。

あまのほりてまうりらる。あひてあまのほりてまうりらる。

高陽院 中御門南堀河東南北二町南一町後入賀

陽親王家 云云

新古今集

上東門院高陽院よかろへはくろふ新古今集

あまのほりてまうりらる。あひてあまのほりてまうりらる。

あまのほりてまうりらる。あひてあまのほりてまうりらる。

春日通

常盤井 春日通南京極西 太政大臣實氏公家 云云 此井今不詳

名寄

あまのほりてまうりらる。あひてあまのほりてまうりらる。

實氏公 西園寺公經公男 從一位太政大臣

近院 春日北烏九東 号松殿 左大臣能有公家

能有公 文德帝第十三子 正二位右大臣仁壽三年正月賜源姓

○大炊御門通

小松殿 大炊御門北町東 光孝天皇誕生所云

小野殿 大炊御門南烏九西 惟高親王家定頼傳

領之清慎公傳領之

定頼卿 大納言公任男 正二位權中納言母昭平親王女

清慎公 攝政大政大臣 藤實頼公 謚号

陽成院 大炊御門南西洞院西 陽成院御誕生所

冷泉院 大炊御門南堀河西 嵯峨天皇御宇此院

累代後院弘仁亭 本名冷然院而依火災改然字為

泉 天曆御記

後拾遺集

冷泉院より免てはくらむ後拾遺集に云く
可きしをさくらむ後拾遺集に云く
云々云々云々云々云々云々云々云々云々

○二條通

小二條 二條南東洞院東南北二町 或号山吹殿

俊賢卿家 師尹公家 御堂殿已下 大二條殿傳領

二條后高子宅

俊賢卿 左大臣源高明公男

師尹公 左大臣 小一條忠平公男

鴨院 二條南室町西一町南北二町 或非院字鴨

井也云昔有古井鴨常居云堀河院誕生所云

愚按源平盛衰記卷四光九丁云押小路町ノ鴨井殿

云謂ハ此二町ニ耳云也。押小路如今ハ烏丸ノ西方

ヨリ此通路塞ガレリ。昔ハ押小路西ニ通ルトニエタリ。町ハ

今云ノ新町通ナリ。是即拾芥ノ義ニ同レ。二條南南北一

町ニ至レ南ハ押小路也。又室町ヨリ西一町ニ至レ其西

新町通也。尔今押小路町ノ鴨井殿トイヘ。其門町口ニ

在ナクシ

町尻殿 一、二條北町東 關白道兼家

町尻ハ新町通ノ別号。町東 町ハ新町ナリ。東ハ東方ナリ

道兼公攝政太政大臣兼家公舅 右大臣關白贈太政大臣正五位

東三條ノ一、二條南町西南北二町 四條院誕生所

或重明親王家云忠仁公家。貞信公大入道殿傳領

長久四年四月廿日燒失

重明親王 延喜帝第二御子。母ハ源昇女 二品式部卿

忠仁公 良房公謚 見上

玉葉集云忠仁公云一、二條南町

或云一、二條南町ハ忠仁公家ト傳ク。其傳子重

微子女王 重明親王女 天曆帝承香殿女御被配

千載集三條院云一、二條南町ハ忠仁公家ト傳ク。其傳子重

微子女王ハ松ノ猶子ト傳ク。其傳子重

微子女王ハ松ノ猶子ト傳ク。其傳子重

竹三條 押小路南東洞院東 或云二條院內
押小路殿 押小路南室町東 普光園殿下 又号

二條殿 普光園殿下 光明峯寺道家公男 關白左大臣良實公

三條坊門通 山井殿 三條坊門北京極西 永頼三位家信家

卿通頼卿

永頼 中納言從三位貞嗣男 皇太后權大夫号山井

信家 關白教通公男 權大納言号山井

通頼 藤伊周公男 大納言号山井

中西殿 三條坊門北富小路西 定方大臣家

定方 内大臣高藤公男 從二位右大臣贈從一位

大西殿 三條坊門北万里小路西 定方家

御子左 三條坊門南大宮東 兼明親王家長家卿

傳領 按此所ヲ小藏宮ト云レニ源平盛衰記卷

四。三條宮御子左ノ小藏宮ト云ケル云

兼明親王 延喜帝第十五子 母管根女 二品中務卿 号小倉親

長家卿 關白道長公男 正二位權大納言

○姊小路通

高松殿 姊小路北西洞院東 高明親王家

高明公 延喜帝子 正二位左大臣太宰權帥 号西宮左麻 又号四條

後白河院御若年ノトキ。此所ニ住テル由出保元物語

直二姊小路西洞院ノ内裏上云ヘリ其時天子六上リ
玉ハサレドモ後即位シ玉ヘルヲ以テオシテ内裏上云々
蚊松殿 姊小路北堀河東 橘逸勢家
逸勢 依逆心配伊豆國承和七年九月自害

○三條通

梅園 三條北京極東 朝綱卿家

朝綱卿 大江音人孫 号後江相公

御倉町 三條北烏丸東 七條院御所云

鬼殿 三條南西洞院東 有佐宅 恩所云或胡成跡

大有佐 小野良行男 小野小町甥 任河内守

三條院 内三條堀河 滅字 康義公宅

廉義公 攝政大臣從位清慎公男關白從一位大臣頭忠公謚

○四條通

四條宮 四條南西洞院東 廉義公家 公任大納言家

紫雲立所

公任 廉義公男母代明親王女 正二位權大納言号四條

西宮 拾芥抄四條北朱雀西高明御子家 今称夷

宮其東二清泉アリ 按西宮攝州西宮同訓故至後

世号夷宮者乎 高明公 醍醐帝御子 冷泉帝

朝爲左丞相安和元年依讓謀迂大宰府天祿二年

飯洛公馴政事所署書有西宮記 是忠親王家

南院 四條北壬生西

五條院二町 五條北大宮東

金岡疊石云云

六條坊門通

河原院 六條坊門南万里小路東八町云融大臣家

後 寛平法皇御所本四町京極西号東六條院

愚云六條坊門今橋通是也南上其南方ヨリ南三至

也今猶此條麩屋町通ノ西一町ヲ云塩竈町也万里

小路今柳馬場通也ヨリ東三至也坊門通南方

ヨリ南三至リ其所今猶明白也 一條院御宇長保

二年所造也

融公 嵯峨帝第二十二子母正四位下大原金子 從一位左大臣

贈正一位号河原大臣

伊勢物語愚見抄曰 河原院ハ左大臣ハ一條川系に家

を造り池をほり毎日湖を三十石をり入て海庭乃真貝

と傳へ先陸奥國塩竈乃浦とらけし之海士の馬を有

るなりを之とて 蝦夷をあらとせん

後撰集 家よ抄平船にまうてまわりお海は月乃たけし

くわきまうお海はまうてまうてまうてらんらん

てつ月をふれつるふちるまをあらとせん川をた

ス

かたりまうていんつるまうていんつるまうていんつる

天和物語 亭子院とまをあらとせん

そをあらとせん川をた

然るに南院十六條院ト東西ニ雙ニテ爲隣也其故ハ清輔
袋州子ニ南院ハ海士橋立也輔親卿家也爲見月寢
殿ノ南ノ底ラハ不差云云懷圓ガ池水ハ天川ニヤ通フ覽ト
讀ム於此詠スルナリ云南院後ニ輔親領ジテ一壇ニツル
次實記未考懷圓法師ノ歌載後拾遺集如左

月のつとかりしるくはるるをさうとゆくと急乃あり
かこころのさぞあふきをまてうららり痛親ガ六条乃
家ノ内うまひけふのむらふれん人しあはれや
あまのひさるに侍ありしる家のはらふあてあて
まはは月乃うけりくゆるはらふあてあてあて
月乃ひさるに侍ありしる家のはらふあてあてあて

池ありは天乃川もかろんそらう月はをよめつハ懐
室町通六條南東方今尚云海士橋立也

輔親 神祇伯能宣子

桂宮一町 六條北西洞院西 未考

○七條坊門

亭子院 七條坊門北南西洞院西二町

寛平法皇御所元東七條后温子家

温子 宇多天皇后昭宣公女寛平九年七月廿六日中宮昌泰二年七月廿三日
皇太后延喜七年六月八日薨二十八歳終七条后又号東三條

案スルニ七條坊門北南難定次坊門ノ南方ヨリ南方
七條ノ北方ニ至リ且一町ニ義九次然ラバ以南也筆者所誤致
及拾遺集亭子院のゆゑ乃るればいふありろくあてあて

まげ糸をきりてみる分ありて

白糸のうしろも何うかうんありてはなもやうと物を

いん

植すく悉くをりてみる分ありて

侍亭子院同賦月影滿秋池應太上法皇製

菅淳茂

洛陽城內有一離宮竹樹泉石如仙洞余蓋世之所謂亭子院焉太上法皇雖入三密之道出万乘之家猶未捨此地風流以助彼岸寂靜故今商颯半暮之秋漢月正圓之夕阿耨池淨摩尼光浮懸鸞鏡於波心似揚州之鑄出浸冰絹於漣面

泉室之織成况珠露万點倚荷葉而助桂花王沙宇數重穿魚衣而宿蟾影水月之相應空觀自生心當日之不離煩慮即滅下略

崇親院 在東六條 出三代實錄 左大臣良相公

貞觀六年所立 拾芥抄 在東五條京班

三代實錄曰以東京六條宅名崇親院引氏中子女不能自存以叔養並皆割封戶入莊田給其資用崇親院中一小堂安置佛像令居住者每旦盥洗誦名号以植後世之善根卷十四 廿九丁

八條

弘誓院 八條南東洞院東 大納言教家宅

教家 後京極良經男 正二位權大納言

○九條坊門

九條殿 九條坊門南町尻東 右大臣師輔公家

師輔公 關白大政大臣忠平公男母右大臣源能有公女 正二位右大臣

○洛外西邊 鳥籠至丸

宇多院 在土御門北木辻東 拾芥抄 土御門八令上長

者町也如云此條ヨリ北ニシテ木辻東也木辻如云今六妙

心寺ノ東ヲ云ヲ如拾芥是ヨリ北ニ當レリ拾芥曰此小路

當東洞院法皇御所刑部卿源湛宅云或抄云西京

宇多小路但此小路當町尻東行也愚按木辻其堅條

ニシテ配當東京東洞院或抄町尻東行也彼條又也

方ニ當ルノ義致今木辻ト云ハ東西ノ條ヲ云フ

法皇 寬平上皇 源湛 嗟峨天皇第十皇子清男也

續千載集 宇多法皇御製

為つる字多野乃風さうあつてはをほくへしやまあそひ

及撰集 宇多院より世々んとありあまをむ式部やま

みくをこそそねくさむ 行明記

古のりやとらんよひとつあつてはをほくへしやまあそひ

西院 本名 淳和院 四條北西大宮東 橘太后家 拾芥抄

愚案拾芥抄大内圖朱雀西ニ又大宮通アリ是ヲ西大

宮ト云フ致今此名ナシ因彼書載此所 橘太后ハ

淳和帝后ナリ○三代實錄曰元慶三年三月廿三日

癸丑 淳和天皇太后崩太后諱正子 嵯峨太上天皇之長女與 仁明天皇同產也母太皇太后橘氏后美姿顏貞婉有禮度承和七年五月 淳和天皇崩皇太后落髮爲尼毀容骨立九年七月 嵯峨太上天皇崩皇太子歟遭讒搆太后宸怒悲號惡母太后皇太子退居於 淳和院當貞觀二年五月於 淳和院設大齋會延諸寺名僧講法華經裝具觀施傾盡財寶使留延曆寺座主圓仁大阿闍梨受菩薩戒奉太后法名稱良祚十六年四月太后所居 淳和院宮殿經籍一時燒蕩太后寢疾綿篤命左右曰天長天子顧命火葬不置山陵無固廟之可陪吾

瞑目之日即入朽林之觀心捕差我之山腹無置守家不配國忌一如先後 太上天皇之遺制語終而絕時春秋七十太后慈仁天至濟物在勤投捨東西京棄兒孤孩結之乳母多所養育割封戶五分之二以充其費差巖舊宮捨爲精舍号云大覺寺其側建齋舍名爲濟治院療僧尼之病以 淳和院爲道場不改院号安置平生侍左右之尼厚充供料永令居住師資相承修道不斷 卷三十五 又曰天長十年二月廿八日乙酉 天皇遷御淳和院讓位於皇太子 同卷十 四丁

後撰集 西院乃后以之 杉乃之御有ひておのせ給ひけ

ふくまは徳院乃中時のおとよびりてくまはゆり
 案スニ至後世以當院源氏ノ公卿ノ學室トス。仍テ源氏ノ
 長者ス人當院ノ別當ニ補セラル。後小松院永徳三
 年ノ春鹿苑院義滿公左大臣ニテ淳和并學兩院ノ別當
 兼帯シ至リ。於此此任永ク清和源氏ニ可補旨依奏聞
 勅許アリ。即兩院ノ別當ニ補シ源氏長者ノ宣ヲ蒙リ玉
 へり中古以來此院斷絶スト云へ。別當ニ至テ公其号アツテ
 源氏ノ公卿大中納言及大臣ノ後モ兼帯セラル也
 西三條 三條北朱雀西 拾芥抄 良相大臣家俗云百
 夜公事 同抄 亭号百花亭 上同

○三代實錄曰貞觀八年三月二十三日巳亥鸞輿幸
 右大臣藤原朝臣良相西京第觀櫻花喚文人賦百
 花亭詩預席者四十人 下略

良相 關院冬嗣男 正二位右大臣 母忠仁公女
 貞觀九年十月十日薨 贈正一位 号西三條

西宮 四條北朱雀西 高明御子家 拾芥抄

後拾遺集 酒のまのたかいまうらゑつこけいりり
 此らまのゆりり酒のまのまのまをらんわり
 ていひま

秋風よ岩うつささの海はよきよあゝぬみりてふれ
 愚案此所今云ラ佐井ノ南ニ當ル歟。今火葬場ノ南ニ東

西ニ徑アリ。其南ニ東西十間餘。高サ三間許ノ山ノ形
 アツテ小竹ヲ生ズ。土人は是ヲ飯山ト号ス。昔公家ノ第ニ
 シテ。假山ヲ築シムルニ。村民ニ多ク飯ヲ惠ム。故ニ号之ト。
 又山ノ南ニ大ナル池アツテ。船ノ朽タル在リト。傳云近
 世爲田也。其側土中ヨリ大石出ツ。今猶アリト。疑ラク
 此所西宮ナル歟。又此所後世佛閣トナス。塔跡アリ。上
 壇ノ地アリ。今是ヲ云壇島。傳云此所ニ号朝見塔。石
 塔アリ。秀吉公聚樂亭ニ移レ玉フト。是亦應仁記ニ云
 佛心寺ナル歟。彼記ニ云。佛心寺ニ朝見塔アリ
 大學寮。在東西兩所。東ハ坊城東三條坊門北。西ニ
 生西二條南也。職原抄曰。此寮者四道儒士出身

之處也。和漢最爲重職。紀傳明經明法。算道謂之四
 道。又當寮安置先聖先師。九哲春秋二仲。釋奠有東
 西二曹。菅江二家爲其曹主。諸氏出身之儒。訪道於
 此。二家而已。寮頭者儒中之撰也。但雖非儒。又有例
 已。此所ハ學問所トシテ。定置ル。ユヘ諸方ノ學者集ル。
 有司云。大學頭位相當從五位上ナリ。抄四道儒紀傳
 上。菅家江家ノ人。是ハ歷代ノ史傳ノ書ヲ明ム。明經ハ清
 原中原ノ輩ニテ。十三經ヲ學明ム。明法ハ坂上中原氏
 ニテ。格式法律トテ。サメク古例法式ヲ學明ム。算道ハ三
 善。小槻氏ニテ算學ヲ明ムル也。是等ノ人々集井テ。指
 南ヲナス也。此所ニ先聖先師九哲ノ像ヲ安置シテ。二

月八月ニ祭アリ。先聖孔子先師ハ顔子。九哲ハ閔子騫。冉伯牛。仲弓。宰我。子貢。冉有。季路。子游。子夏也。釋奠ハ孔子ヲ祭ル也。此寮在東ヲハ管家天神已來。管家ノ智者此所ヲ司リ。管丞相神影ヲ安ス。又西寮ヲハ大江維時已來。江家ノ智者司リテ。安惟時由見舊記。此所ノ任頭人ハ儒門ノ中ニ才學ノ人ヲ撰テ任ズ。若儒門ノ中ニ其器量ナキ時ハ他門ノ人ヲ任セラル。勸學院 在二條北壬生西。此所ハ藤原氏ノ公卿若冠ノ時學問所也。同氏中以辨官人爲別當。云尚次下ニ記ス。此所始藤左大臣冬嗣公館地也。云。辨學院 在勸學院西。此所ハ源氏公卿學問所也。撰

才學人爲師範。帝資領ヲ附セラル。又無官司不可相續。故ニ司官ヲ居ラル。之ヲ号別當。即源氏ノ公卿ノ中擇器量中納言大納言ノ人任之。此官氏族尊貴故ニ此任ヲ号氏長者。又号淳和院所是亦同氏ノ學問所也。然ハ中大納言ノ時此兩院ノ別當ヲ兼任セラル。若其人大臣ニ升進セラル、時ハ淳和院ノ別當ヲバ次ノ公卿エ讓テ。辨學院ノ別當ノミヲ兼任セラル、モ是亦舊例トナリ。夫學問ハ諸道ニ冠タレハ。此任タル事寡規模也。至末代雖無此院其官稱ハ相續シテ任セラレ。任官ノ名義此例也。繼ハ近衛府。兵衛府等是ニ同レ。近衛ハ左近衛。右近衛。其外左衛門。右衛門ナリ。

是ハ大内裡ノ内門ノ側ニ勤番ノ所アリ此所ヲ号_ス府此
所ノ長官頭タル人ハ大將ノ任官也。是亦其居所末代ニ
ナシトイヘ凡今尚任官アルナリ。又左右近衛左右衛門
左右兵衛ヲ号_ス六府。左近衛右近衛ハ禁裡ノ内ヲ
被_ル護ユヘニ号_ス近衛。衛門兵衛ハ其外ヲ以_テ守_ル云外衛也。
是尤武官ノ長上トシテ帶弓箭太刀其長官ヲ爲大將
次ヲ爲次將下司官ヲ率_テ被守護由古記ニ繁多ナリ
淳和院 如 淳和帝讓位ノ後住玉ヘル處後世爲源氏
學問所
學館院 是亦橘氏學問所也 差我帝后檀林皇后
橘氏ニテ才智アリ。舍弟右大臣氏公ト相議_シテ是ヲ

興立セラレ氏公右大臣ニテ當院ノ別當ヲ兼帶_シテ
稱橘氏長者是ヨリ當院ノ中_ニ中大納言以上ニ升進ノ
人ヲ擇_テ之ニ補セラル橘氏至末代衰タルユヘニ橘氏
長者ノ号ハ攝家ノ中ニ擇_テ其器才宣言ヲ玉フ是ヲ号_ス
是定 花山院御宇橘中納言澄清此院ノ領ヲ知
ラルレドモ橘氏ノ長者ハ中関白道隆公爲大納言蒙
宣言其後此長者号九條殿ニ相傳_リ橘氏後裔九
條家_ニ附屬ト云
弘文院 在勸學院北 此所モ亦和氣氏ノ學問所
也是亦當院ノ別當アリ和氣清磨造之云
鴻臚館 在朱雀七條 此所ハ大内ノ御時異國ノ客

人使者等ヲ饗應セラル所也辨前卷

施藥院 拾芥注云唐橋南室町西云云此義不可也

同書圖六出九條坊門通下町西洞院東方也此義

可也弘法所作ノ種智院記ニ合セリ今尚其所小地

ヲ殘シテ号ス施藥院森其所稱荷神旅所ノ東一町ニ

小林アル是也 此所ハ大内裡ノ御時浴中洛外ノ諸

病者或ハ老衰テ無據輩孤獨等ヲ尋率テ令居此所

施撫育玉ヒシナリ延喜式卷四十二云凡京中路邊

病者孤子仰九箇條令其所見所遇隨便必令拾送

施藥院及東西悲田院云云 悲田院 記前卷

已上拾芥抄

羅城門ノ 此門ハ大内裡ノ御時平安城南方惣郭ノ外

門ニテ直ニ内裡南方ノ正面也其街如記上朱雀通ニ

シテ南ハ至鳥羽也門前東西ノ街ハ九條通ニテ其條

北ノ畔ニ立タリ棟行東西ニテ上ニ在樓樓四方縁欄

干アリ此門ニ入テ至北其條自一一條一町上冷泉通

北畔ニ有門号朱雀門是則内裡惣郭ノ南面門也

羅城門ノ舊跡ハ今云ラ千本通九條辻也如今ハ鳥

羽大路於九條其條東ニヨリタリ上古ハ不尔朱雀

通ニ貫ケリ今四塚ノ北九條辻ニ有稻渡東西此下

流ハ堀河ノ濁水ノ支流也是ハ爲耕作用水後世ニ

ナス所ナリ上古ハ從九條北從朱雀東鴨川ニ至テ

山州名目録卷一

西園入道

あつらひしむらさきまはしつらぬみづのたけのこひてらふ

正一

中納言定家

そののびる春と恋しくゆらぐまこと紫雲まよふをせけとまりと

風雅集

定家卿をよむ侍るあまぶとら入て又かへつりゆ

くつかり彼まうく種くひまき木の本ははなれいけき

正一

朽のころろと彩階の栞えもみとつとまをわしお大納言の世

○為相卿家

冷泉南京極西 傳云定家卿二條家ノ北面冷泉

通今云

南方京極 西也故ニ稱家傳云冷泉家

○俊成卿家

五條京極 平家物語長門云忠度四塚邊ヨリ

飯リテ彼俊成卿ノ五條京極ノ宿所ノ前ニヒカエテ云山

槐記云治承四年二月十四日丙申亥刻東南有火起高

辻北五里小路西北至綾小路東指巽出京極南至五條北

右京太夫人道俊成家左少將實教朝臣宅焼亡云

應奉家

在壬生西坊城東綾小路北四條南故号壬生忠峯

府生木工允忠衛子右衛門府生和泉大將定國ノ隨身和歌

紀貫之ヲ師トス 近世此地ノ田圃ヨリ忠峯硯ヲ掘出ス忠

峯ノ二字ヲ彫ル今現ニ壬生寺ニアリ

家隆卿家

在壬生西坊城東六條北楊梅南猫間猫間名義

不詳其地今ニ猫間田島ト云 世傳云此地ニ有中納言光

隆卿宅依之稱猫間中納言 其男家隆卿相繼テ傳領ス故ニ

壬生二位又坊城二位ト号ス中納言兼齋苗裔中納言光隆男

母大皇太后官亮實兼ノ女也官内卿從二位俊成卿和歌第

一門弟寂蓮法師ノ聲也古今著聞集云云 俊成卿後院

そとえそとを乃はさるありきつとるは京極なるや合号

まじりしむらさきまはしつらぬみづのたけのこひてらふ

山州名目録卷一

〇三十一

人ぬまゝくはらひのりてをまゝとせむとてとやうとせむひさる
畧記サバ定家家隆トテ牛角ノ歌人ニシテ恰如車輪兩翼云云
時雨亭 傳云此亭權中納言定家卿ノ所設ナリト。舊跡所々ニ
アリ。西陣般舟院ノ地此所ナリト。當院ノ門前南方ニ南北ニ
通ツテ半町許ノ辻子アリ。号定家辻子。此所彼卿ノ第宅アリ
ト云フ。時雨亭荒廢ノ後今ノ般舟院ノ地ニ云歡喜寺アリ。又
同名ノ寺近隣ニアリ。今尚存ス。是ヲ号兩歡喜寺。應仁ノ兵火ニ
毀祿ス。應仁記云。千本ニ兩歡喜寺。此寺ニ定家葛ノ墓アリト云。
此墓今尚般舟院ノ内ニアル。般舟院始伏見ニアリ。天正年中
此地ニ移ル。謠云定家卿式子内親王ヲ慕ヘルコト切ナリ。卿ノ
没後一念ノ妄執葛トナシテ塚ヲ絡フ故ニ号定家葛ト
稱。時雨亭彼卿ノ和歌ニ時雨知時ト云コトヲ讀ル
偽リノナキ世ナリケリ。神無月タカニコトヨリ時雨初ケシ
又時雨カト聞ケハ木ノ葉ノフルモノヲソレニモヌル。我カ被カケ

又一所 相國寺塔頭普光院ノ地其所ト。又一所在差其
所釋迦堂ノ西一町許ニシテ至北。又越西巷其地ニ有庵室。号
厭離庵。此所彼亭アリシ所ト云。有井云定家井。庵東島ノ間ニ
有塚爲家塚ト云。又一所絹笠山ノ東面松原村北一町餘
田間ニ空地アリ。此所彼亭アリシト。土人誤テ時雨地ト云ナル。後
世此所ニ作堂安藥師佛ニヤ。土人又云藥師堂
源雅家北島亭 北島地名指南抄云北島通從一。條北其間三
町也云云。此條通東西云云。今塔壇ノ邊ナル歟。雅家系圖云權大納
言通方卿。男北島准后親房祖父也云云。
大納言公綱卿亭 在北小路今出河。西 實氏公。今世帝王編
年紀云。龜山院。後嵯峨院第三皇子。建長元年己酉五月二
十七日誕生。于外祖父前。太政大臣。實氏。今出河。第云云。注北
小路。北今出河云云。
中園殿 見室町通上立賣北。持明院東北。跡見園太曆。此所

山内志

三二

洞院公賢公第也。曆應上皇此所御幸事載園太曆

勅亭 在北小路河殿後愚昧記云永和四年大樹北小路亭

元院御所也。大樹申請造營之前。右大將公直菊亭同混領之

云園太曆云觀應元年十月十五日向右府第先恭新院

洞院芝第 洞院實熙公宅也。康富記芝地名也云今芝藥師町邊

次又寺內通西有芝辻子可有後勘

式部大夫永範宅 一條北大官西出山槐記

日野資綱第 烏丸一條北方親長記云日野一位資綱宿所

一條烏丸北類云今尚一條通室町西号西日野殿町

中納言能保第 一條室町出東鑑持明院通重朝臣男頼朝卿

妹賀号一條二位帝王編年記

大納言道綱家 在一條出今音物語

治部卿通俊宅 在一條散木集治部卿通俊乃一系の家云云水石契云云

山門を以てのりてはねるる乃路と云ふは後朝の記

一條西殿 在土御門西洞院 關白家實公第 出百練抄

一條東殿 在土御門室町西新町東 百練抄

伏見殿 在土御門 康富記云仙洞者土御門高倉南西角

前右府公光公亭也。自去嘉吉元年冬以伏見殿為皇居仍以此

此亭為伏見殿御在所云云

源定通卿亭 在土御門万里小路 定親卿号久我源大納言

土御門院之外戚也 百練抄

邦繼卿亭 在土御門東洞院東 前大納言邦綱第先々時々

為皇居治承四年三月四日今夜 新院遜位之後始有御幸

此亭云云 山槐記

甘露寺親長亭 在正親町烏丸西 宣胤卿記

宣胤卿亭 在土御門西洞院 中御門宣胤卿 出同記

內大臣實量公亭 在土御門高倉西 實量公轉法輪三條 康富記

一條棧敷屋 其地不詳 此所賀茂祭物見物ノ所ナリ女院
后宮出御ノ所ニシテ恒ニアリシト。於此願城トヤドルニ鬼ノ出ケル
由載空治拾遺又徒然草ニ出ツ

一條殿 在室町一條北 桃花葉葉云室町第應仁乱焼失至
町二面日野宿所同焼失畢其後日野第雖新造之家門未及再
修爲之如何。古今著聞集云一條が修ぬる左大臣よかろ
まうまろくとこぬこももんとく。一條室町乃法務を定めて
寺入るが依平が終絶よかりたてけりせまふなり。寛元三
年十月二十七日沙彌のあつとまり

安陪晴明宅 在上御門古今著聞集 察晴明宅在所々出著聞集曰

ひしし堂園白石はぬきを建ててまひまのちを日毎は清
堂えまのつう波をいらくぬらうとをかをせしてうせ給ひる
いつを波をせしめしれど清供しきまりあつ日例乃ごとくは供し
まろぐ。ひししとんとくまへまへに大はるかにやうやうなる

まつらうとくうらひしきまろじとをまねん。修業とくくはより
そりていつとんとまへまへに清衣乃とそとこらひてひししとめん
とくまねんいつとゆやうのふまろんとく。榻をまへしとく
は庭をのちて晴明よとくまのれとめよはらうし給ひるれを
晴明とまりとありまろめくま事乃ありひつくとやひまひ
あまを晴明志をくううらひてやうとくこれとをて咒
しとまりていりのをまろうばとていし清あえあまうは
あしとくまろいづき。たき通カ乃めとく若うして作たりや
やせもそれをいほくよりうづとくあつたつとのこまろを
やとくいとやうとくまろしとくまろひてあまを作とくを
わしててあまうまよ。土まろごりあつたりとれを。あまのこく
あありまろり。あつとくまろうらうらあせしてひしし紙ひひり
うまろ十文字まろくまろりひしとてあれた。中よハ物も
なり。朱砂とく一文字をぬき乃庭よりとたろとろつたり

保元元年ヨリ以來。天下ノ大小事ヲ心ノミニ行ナシタエタル跡
ヲツギ。スミレタル道ヲオコシ。延久ノ例ニ任セテ。大内ニ記録所ヲ
置理非ラ勘決ス。聖断私ナカリシカ。人ノ恨モ不貽云云

大臣頼忠公亭 在三條北西洞院東拾芥圖 太政大臣頼忠公

出大鏡云。いはく。乃々其れ大内ノ次弟ナリ。三條

右大將實基卿宅 在三條西洞院百練抄於此所 四條院崩後中

内大臣公教公亭 在三條高倉東拾芥圖 菅原在良卿宅 在三條壬生此續古事談云。天祚じつ。任多ハ

中納言雅頼卿宅 在三條猪隈東山槐記 正三位家保宅 在三條東洞院系圖傳 正二位顯季男

又一所 三條京極百練抄 同抄大治四年閏七月二十日。待賢

門院於家保朝臣。三條家誕第五 皇子。本此所門院ノ館トナス

大納言經信卿亭 在三條置木集 藤敦頼亭 在三條東洞院 歌人從五位下右馬助後出家道

藤長實卿宅 在三條烏丸 此所美福門院降誕地也。仁平元年

十一月二日八條殿炎上。新院御幸此亭百練抄

權大納言兼實宅 四條坊門東洞院山槐記

惟方宅 在四條高倉 兵範記云。久壽二年三月三日今夜

東官行啓。四條高倉惟方家日來御于烏羽田中殿 五日今夕姉子内親

王法皇御女美福 被入東官女御。御年十六歳

大納言隆季卿宅 在四條大官西山槐記

時賢卿宅 在綾小路壬生出著聞集 後鳥羽院御宇蹴鞠名人

大納言泰通宅 在五條坊門高倉著聞集

藤頭隆宅 在五條北高倉西 康和五年正月十六日丙申今夜

子刻女御有御產事 鳥羽院后於此所御產也 本朝世說

中宮大夫實長卿宅 在五條北東洞院東 山槐記

大江公資家 在五條 大江公資宅 在五條東洞院 袋神紙

左京大夫顯輔宅 在五條南西洞院東 舊記

法性寺攝政亭 在六條坊門烏丸 著聞集

源朝雅館 在六角東洞院 源朝雅八帝都ノ守護也 元久二

年七月下旬將軍實朝公北條時政ノ許ニ移住ノ時牧御方私ニ

時政ヲ勸メテ實朝ヲ害シ其聲朝雅モ源氏ノ一族ナレバ是ヲ取

立テ將軍トセントス政子此由ヲ聞テ實朝ヲ迎ヘテ義時ノ宅ニ

入シム在鎌倉ノ武士長自義時ノ亭ヲ守護ス時政モ爲方ナク

剃髮シ伊豆ノ北條工齋居セリ是ニ依テ在京ノ武士ニ命ジテ

武藏守源朝雅ヲ誅ス 東鑑 伊賀判官光季宅 在高辻京極邊 承久年中京師ノ守護也

承久記曰判官ノ宿所ハ高辻京極高辻ヨリハ北京極ヨリハ西京

極面ハ棟門平門ニテ大門ナリ高辻面ハ土門ニテ小門也 下略

此所ハ後鳥羽院ノ爲ニ亡滅セラル其來由ハ承久五年ノ夏

後鳥羽院北條義時ヲ亡シ王ハントノ御隱謀アリ先帝土ノ守

護ナルヲ以テ光季ヲ召トイヘドモ更ニ不領狀院參スルコト無シ

仍テ官軍ヲ以テ此所ヲ攻ラシ光季防グニ無勢シテ父子并ニ

家士二十九人自害ス

兵部大輔大江公資宅 在五條東洞院 庭ニ櫻ノ大木アリ能因法

師公資ト睦シ花ノ比毎歲攝州古曾部ヨリ來ル由能因ガ傳ニ書ス

源家堀河館 是則源爲義ヨリ賴朝ニ傳ル所ナリ其地今本國寺

本房ヨリ南ノ方也方丈ノ東北竹林ノ地古ノ馬場也ト云又說

此所ヨリ東堀川ヲ越テ今云醒井通六條坊門ノ南ニ至テ

其方竟ナリト坊門ノ南ノ町ヲ云泉水町人家ノ後ニ池跡存ス

是其境内ニアル所ナリト云判官殿池也愚案此義誤リニシテ此

所ハ後白河法皇ノ御所ノ地西ノ堀ナレ致其故ハ今本國寺ニ所
在源直義ノ下知本國寺方竟四至狀曰六條法華堂屋敷南
森裏田堀北五條今道堀東御所跡舊堀堀下略法華堂六云本
國寺今道ハ松原通也舊堀ハ彼寺東ニ流ル堀河ノ條ヲ指也堀
河ノ流古ハ今ノ門内ニ入テ南方今本願寺ノ堀ヨリ西ニ流レ
南ニ下リ也然即今本國寺東ノ堀ハ東方御所ノ要害ニ所設
也如云古堀河ノ館東ニ且テ其所ナラニ云何ゾ其宅館ヲ御所
ト云ハシヤ御所ノ号ハ攝家官女御門跡已上ノ殿舎ヲ云也
六條ノ御所辨次下因曰親朝義經不和ノトキ義經堀河ノ宅ニ
居セララ土佐房ニ命ジテ義經ヲ討トス昌俊此所エ夜討ニ入ル
是ヲ世ニ堀河夜討ト稱ス其夜白拍子志津賀働ク由ヲ稱ス又
義經平家ヲ亡シ大臣親子ヲ生捕上洛ノ時此亭ニ入ル由平
家盛衰記ニ載タリ是皆東鑑ニ違ス其所六條室町亭也是即爲義
宿院也昌俊ガ寄來ルモ白晝ニテ志津賀ハアラゲル也東鑑載在

源爲義亭

在六條室町

東鑑云元曆二年四月二十六日

今日前内府已下生虜依召所入洛之間法皇爲御覽其

勢密々被立御車於六條坊城云申刻各入洛前内存平

大納言各駕八葉車上前右衛門督乘父車後各奔土肥二

即實平黑糸威鎧在車前伊勢三郎能盛肩白赤威鎧在同後其外勇

士相圍車又美濃前司以下同相具之信基時實等者依被

施用開路云皆悉入延尉六條室町第云

同卷五云文治元年十月十七日土佐房昌俊先日依金關

東嚴命相具水尾谷十郎已下六十餘騎軍士襲伊豫大夫

判官義經六條室町亭于時豫州方壯士等逍遙西川邊之

間所殘留之家人雖不幾相具佐藤四郎兵衛尉忠信等自

開門戶出責戰行家傳聞此事自後面來相共防戰仍小

時昌俊退散豫州家人等走散求之豫州則馳參仙洞奏

無為之由云 行家源為義十男義經伯父本名義盛

大膳大夫成忠亭 在六條西洞院 出平家物語卷八

七條坊門亭 出東鑑卷四 元曆二年四月二十八日建禮

門院渡御于吉田邊 律師實憲坊又若官 今上兄 御坐船津

之間侍從信清令奉回奉迎之奉入七條坊門亭云

御隱殿 在六條堀河 山槐記此所關白左大臣家實公家也

最初美福門院乳母伯耆局宅云此所今本國寺方丈良家

平兼盛宅 在六條高倉東 舊記

修理大夫顯季卿宅 在六條南東洞院東 著聞集

顯輔卿宅 在六條大宮 兵範記

北小路東洞院亭 東鑑卷五文治元年十月廿二日右馬頭能

家人等自京都馳參申云去十六日前備前守行家追補召候人

之家屋擲取下部等結句行家移住北小路東洞院御亭云

藤信清公亭 在七條坊城 山槐記東鑑同 系圖云信清正二位

內大臣修理大夫信隆男 東鑑云元曆二年四月二十八日上略

若官今上御兄侍從信清奉迎之奉入七條坊門亭云

顯長卿宅 八條堀河 平治物語下云一院仁和寺殿ヨリ出サセ

御座タレドモ二條殿ハ去年燒又御所ニ可成所モナケル八條

堀河ノ皇太后宮大夫顯長卿ノ宿所ヲ御所ニナレテ入セ玉フ。臣

小松殿 八條北堀河西 此所小松内府重盛ノ館也小松名義

不考又平頼盛ヲモ号小松殿也案スレ至承元年中此亭アリ

法然上人遠流記云承元元年三月十八日禪房ヲ出レ先ハ

條ノ小松殿ノ持佛堂ニ移奉云

平清盛館 西八條亭是也 境界東ハ限大宮西限坊城東西

三町北限八條坊門南限八條 拾芥抄 彼書圖云仁安元年西

加四町云云疑タハ西一町ナル歟其故ハ至四町則朱雀通ノ西

至三町也朱雀ハ大内裏南面ノ大路ニシテ開闢ヨリ不駟ノ街

持明院

上立齋北新町通西 此所持明院祖中納言基家卿

息女

陳子号北 依為 後高倉院正妃就彼所緣御寄宿于持

明院及多年

後堀河院脫履之後向以持明院被成仙居了

其後為代人仙居者也

已上宣胤卿記取意 案 崇光院亦此所二

移王へり

後伏見院於此所崩御あり續神皇正統記曰 崇光院

親應二年八月俄子也裏去河門後より持明院及び孝内侍所

同く後河門より上喜喜本院に同宿る也 彰院八度義門院

乃以新小ぞ馬まらえ之〇紹運録云 後伏見院崩持明院 建武二年四月六日

後鳥羽院五辻殿

百練抄 元久元年八月八日 上皇新御所五辻殿

御移徙御幸也云

齋院五辻亭

百練抄 承元二年九月十八日五辻前齋院薨 御年六十四

姬宮五辻亭

六條院姬宮 兵範記云 仁安三年正月十九日壬午

裏書云 姬宮御所一條北邊五辻可為 主上御本所由自院

有御沙汰彼宮券契被獻内了 二十八日辛卯今夕為御方

違行幸五辻宮御所云

皇太后宮御所

在一條室町 東鑑云 承元四年三月去四日

坊門院御姊

於一條室町故皇太后宮御所崩 卷十九十八丁

案皇太后宮

後白河院后二條院母公欽

坊門院

高倉院皇女母小督局 号坊門女院又号六角内親王諱範子齋宮

持明院上皇御所

在正親町東洞院 園大曆二層應二年十一

月二十日今夜

天皇自内裏正親町東洞院行幸持明院

東洞院殿

在正親町東洞院 後土御門院母公准后御所 宣胤卿記

承明門院御所

在土御門 著聞集 百練抄 土御門万里小路西云

後栢原院皇居

在土御門東洞院面 号東洞院殿東洞院東南角云

康富記元伏見殿御所也嘉吉二年已來為皇居云

室町院

在室町土御門 昭慶門院御所也 龜山院皇女母大納言雅平卿女

春日殿

在春日通万里小路 玄耀門院亭 帝王編年記云正應

二年二月行幸此亭。又永仁五年四月十八日行幸門院後深草院大炊御門殿。在大炊御門万里小路。大治五年記。上皇御在所云云百練抄云此所大納言宗忠卿領也云云

京極殿 在京極大炊御門 建仁上皇御所也 百練抄

後堀河院御所 在大炊御門西洞院 同抄

後嵯峨院御所 在冷泉通富小路邊 始內大臣亭也 讓位ノ後此所ニ住玉リ 著聞集

小野皇后御所 在二條東洞院 十訓抄

二條院御所 在二條 平治物語上

高倉宮御所 在二條高倉 平家物語 三條北高倉通也 今曇華院地是也 官 後白河院皇子以仁王母從三位成子藤季成女

後白河院御所 在二條烏丸 崇徳院住玉リ 保元物語中

後深草院御所 在富小路二條 嘉元二年七月十六日於此所崩玉云 增鏡

白河院御所 在三條室町 續世繼物語云 白河院の御所は、今、（注）

本院 白河院御所 在二條院之西。其地又何ノ御所ナル未考云 保延四年

後鳥羽院御所 在西洞院六角 出東鑑卷二十五

四條離宮 出元亨釋書其地又何ノ御所ナル未考云 保延四年

二月二十三日 四條離宮火云 卷二十六

皇嘉門院御所 在四條壬生 出明月記 皇嘉門院聖子法性寺 關白忠通公女也 母大納言宗通卿女 崇徳院后 大治五年

二月二十一日 立后云 上西門院御所 在揚梅通油小路 經房記 鳥羽院皇女母待賢門院

後白河院御所 在六條 案此所六條面ニ在門由載東鑑傳云 今下寺可延壽寺始此御所ノ傍ニアリト 其舊地油小路樋口 壽寺南ニテ号金佛町 本尊銅像ナル故ナリ 長構堂又同所ニアリト 然則此御所ノ方境油小路ノ西方北八樋口通南ハ六條ノ北方

西八堀河ノ東畔ヲ限ル致然ル時ハ東西一町南北三町也如令六油
小路ト堀河ノ間ニ在醒井通後世ニ所開也油小路六條ノ北一
町ヲ号内堀町是古堀アル所醒井通六條坊門ノ南一町ヲ号蓮
池町是又御所ノ池アル所致東鑑云文治四年四月二十日西
刻親能飛脚自京都參著去十三日六條殿燒亡云云寶藏并
御倉雖遁災於長構堂災本尊取出之云云卷八 又曰文治四
年六月六條殿作事可抽營作功之由二品依令申給造管如
本長構堂可候也有御沙汰哉付御堂傍藝御所可有同卷
又曰文治四年七月十一日六條殿御作事二品御知行國役
者爲親能奉行以大工國時被遣進遠江國所役事被下御
教書今日到來則被付被國司義定云云
六條殿 御作事之間六條面築垣一町門等可被造進者女
院御氣色執達如件

六月二十七日

権右中將

遠江守殿

又曰去十月十八日六條殿上棟云云 又卷十二曰建久三年
二月十三日寅刻 太上天皇於六條殿崩御同十五日奉葬
法住寺法華堂雖爲重日依遺令也如此諸事存日被定置云云
七條女院御所 在七條堀河西 女院 高倉院后 後高倉院
後鳥羽院母公謹殖子贈左大臣信隆女
美福門院御所 在八條烏丸 此平治物語上
同御所 在白河 号押小路殿此地洛外白河而中京師押小
路也今案其地今聖護院村南邊乎 載舊記 吉記云壽永三
年四月十六日甲戌今夜院押小路殿御移徙也本是
鳥羽院仙居高松院御傳領也次被奉建春門院法住寺殿之
外依無他御所今加修造令渡御也 已上 案門院於此所薨
山槐記曰永曆元年十一月二十四日今夜美福門院御葬送
自押小路殿渡御東殿云云

後鳥羽院御所九條院 在九條院不詳 東鑑云承久三年七月九日

今日踐作也 先帝於高陽院皇居遜位密々行幸九條院 卷二十五

右先帝 後鳥羽院 新帝 上御門院 二十六丁

宣秋門院御所 在九條百練抄 月輪殿女 後鳥羽院后

皇嘉門院御所 在九條百練抄 承安四年十二月造營云云 境内

在佛殿号御堂 吉記云治承五年三月三日有火皇嘉門院

御所於御堂免餘焰云云 後鳥羽院御所 在四辻 四辻不詳 東鑑卷二十五二十六丁

朱雀院 不詳 宇多院御所 寬平九年七月三日御子敦仁

親王ニ御位ヲ讓テ此所ニ住マヘリ 上皇御年三十歲又天慶九

四月十三日 朱雀院御弟成明親王ニ御位ヲ讓テ移住マヘリ

尊氏公館 在近衛通東洞院 太平記云左兵衛督義朝集久兵衛

ヲ召具シテ將軍ノ御所近衛東洞院ニ御坐ケル 卷二十七

同館 在二條高倉 載太平記節度使下向所 卷二十七

直義公館 在三條坊門高倉 号三條殿 太平記卷二十

同退隱館 在錦小路堀河 太平記云去程ニ直義八世ノ交リテ

止る細川兵部大夫顯氏ノ錦小路堀河ノ宿所ニ被移テリ 猶モ師

直師泰公角テ始終御憤リヲ被止ニシケレバ身ノタメアレカレトテ

偷ニ可奉夫由内々議スト聞エケレバ其疑ヲ散セントメニ世ニ無望御

身ヲ捨果ラレタル心中ヲ知セントニ貞和五年十二月八日御年四

十二歳ニシテ御髮ヲ落シ玉ヒムル 義滿公館 在室町今出河北

号花亭又号室町殿其構室町通

今出河ノ北ニ南面ニ惣門アリ今号惣門町凡南北三町東西一町

半鳥丸西方ヲ爲東西造營鑊金銀庭境集諸花今其所ヲ号築

山町在惣門町北四巡ニ有堀由載後太平記東面ニ在四足門

由應仁記ニ載タリ永和四年三月有移徙由載將軍家譜永德

元年二月 後圓融院行幸アリ應永二年四月 後小松院

幸アリ。同四年四月義滿公北山亭ヲ造テ移リ此所ヲ子息義持公ニ被讓。北山亭見前卷。義持公後舍弟義宣任征夷將軍改義教。此代永享三年十二月加造新亭。同九年十月二十二日。後花園院行幸。關白以下百官供奉二十六日還幸。同御宇。嘉吉元年四月二十四日。義教公爲赤松滿祐逆心。弑セラル。滿祐首ヲ持テ播州ニ皈ル。管領細川右京大夫持之。畠山左衛門督持國大内介持世等。義教公ノ息義勝ヲ立テ爲主君。同年九月山名持豐同教清同教之滿祐ヲ攻ム。滿祐自害ス。嘉吉三年七月十一日。義勝早世。十歲。義勝ノ弟。義成ヲ爲主時。八歲。享德二年六月。義成改義政。治世十五年。後以家督弟。義視ニ被讓。是則初淨土寺門主号。義尋還俗セシム。事ハ載應仁記。此時應仁亂出。義政義視ト不和ナリ。文明元年正月。義政ノ實子。義尚五歲ニシテ。勝元以下諸臣ノ礼ヲ受ラル。長享二年九月。義尚改義熙。延徳元年三月十六日。江州於陳中卒セリ。二十五歲。於此義政義視ト

和睦シ其子以義材爲子被讓。其後政元伊豆ヨリ義通ヲ迎テ爲主君。後ニ改義高。義政ノ弟。政知ノ子ナリ。政知在伊豆。祖父義政初養子ノ約諾アリト云フ。

○花御所 行幸記曰。永享九年十月一日。御路東洞院ノ南ニ行中。御門ヲ西ニ行。室町ヲ北ニ行。武者小路ヲ東ニ行。今出河ヲ北ニ行。北小路ヲ西ニ行。室町殿ノ四足ニイタル。○後愚昧記云。永和四年三月十日。大樹北小路亭元院御所也。而去年炎上之後。依無御造作。大樹申請造營。

義政公亭 在北小路烏丸 康富記云。文安六年三月十一日。烏丸殿有移徙。寢殿門等。自花御所被引之。

義尚公亭 在油小路一條南 文明六年造之。親長記。此地元裏松政光卿宅地也。云。

義輝義昭公亭 在室町通勘解由小路南。今号武衛陣町。是則先代三職一家武衛家館アリ。今其以南ヲ号大門町。又其東

烏丸ヲ号堀内町其以南ヲ号櫻馬場町西ハ新町南ハ春日北ハ
至近衛通其封境也時ハ永祿七年ノ冬ヨリ至八年造營セラル
然同八年夏義輝公三好松永ガ揮逆威惡シテ誅罰ノ密謀アリ
彼輩聞之同年五月十九日三好日向守長祿同下野守政
康岩成主稅助左通松永彈正久秀男久通等發向圍此亭
義輝公自防戰ヲル終盡勢放火シテ自害アリ三十於此足
利系統滅ス其後義昭公代永祿十一年九月依信長武功
追討三好一黨公此時以本國寺爲本陣同年十月任征夷
將軍明年正月五日三好ガ殘黨又襲本國寺然正不得利
敗北ス信長公從濃州上洛シテ以村井民部嶋田所之助爲
奉行室町亭ヲ東北エ一町宛倍增シテ爲再興爲義昭公亭
以木下秀吉令守護然後天正元年七月義昭公信長公ト
不快ニシテ去此亭宇治真木嵩ニ籠城セラル於此信長公走士卒

攻破彼城命佐久間信盛木下秀吉義昭公ヲ河州若江城ニ
送ラシム然以村井長門守爲京師所司天正七年十一月信
長公件亭ヲ造營之爲一宮誠仁親王館尊氏公建武二年
入洛ヨリ已來或ハ父子或ハ兄弟相續シテ任將軍十三代治
世二百三十二年也義輝公ノ嗣職義榮任將軍永祿十年二
月也雖然同年九月依腫物卒セリ同十二年義昭任將軍至此
十五世ナリ天正十年六月二日信長公信忠公爲明智逆心信
忠卿ハ於此亭被薨就其火災此館ヲ燒失シテ斷絶ス
義持公館 在三條坊門 家譜云應永十六年十月自北山亭
移居三條坊門亭
室町殿室母公亭 在北小路室町西号北小路殿 長真宿祿
記云文明八年十一月十四日辰刻 主上從小河御所行幸北
小路殿三位禪尼御所

勝知院 在柳原室町 此所室町殿母公亭也後又普光院殿

北方母公住 ○等持院記云勝知院殿從一位万山禪尼寛正

八年八月八日逝去云 長興記云文明七年八月八日勝知

院殿室町殿御母義 十三回忌也於勝知院有御作善云

義政公館 在北小路万里小路 家譜云寶徳元年三月移徙

北小路万里小路亭

同館 在烏丸今出河北 号烏丸殿此所義政公成長所莊觀

美麗ヲナス由載應仁記

同母公館 在高倉今出河北 号今出河御所 應仁記云軍勢ヲ

一條ヨリ上エアケ立テ身方ノ勢防グニ難協城エ花ノ出入難

義ナルシトテ東ハ烏丸殿高倉ノ御所西ハ伊勢因幡守ガ宿

所ヨリ三條殿エ持ツケ晝夜ヲ不分戰フト云云案云此時ノ

内裏ハ土御門ノ内裡也 辯末 是故ニ高倉通東洞院洛北ニ貫

タリ應仁記云軍兵二三万人一條室町ヨリ東烏丸東洞院高倉

四五町ガ間ヲ真平ニソソ切テ上リケレ云

義視公館 在今出河北室町西 号今出河殿 此所義視公舅堂

上三條亭也

○武臣之第

高師直第 在今出河 出太平記 文曰故兵部卿親王ノ御母堂

民部卿三位殿ノ住荒シ玉ヒシ古御所ヲ點シテ棟門唐門四方ニ

アケ釣殿泉殿棟梁高フシテ造並ヘテ奇麗ノ壯觀ヲ逞セリ

細川勝元第 在室町北有東北 夫倉差向上御壺社前由載應仁記

細川滿元第 在室町柳原加世以辻子此名所誤也若栖院是即滿

元法躰号也

同第 在北小路町 康富記 長興記 勝元政元居

古山滿藤宅 在柳原 明德記

細川澄元宅 在小河北

伊勢守貞宗宅 在五辻室町西 今尚有伊勢守屋敷
赤松兵部宅 在北小路 長兵記

細川治部少輔宅 在武者小路猪隈西方 康富記

三好義長第 在衣棚通頭木下町 永祿四年正月三好長慶

男筑前守義長上浴ス將軍義輝公ニ謁ニ第ヲ構エテ大樹ノ

渡御ヲ願フ義輝公許諾ス同年二月晦日將軍威儀ヲ繕ヒテ義

長ガ第ニ來臨ス種々饗應猿樂等アリ然後義長ノ器量アルヲ松

永暉正忌畏レテ私ニ毒ヲ進メテ弑ス長慶已ニ老シ舍弟十河一

存ガ子義繼ヲ養テ繼嗣トス

細川政元第 在新町通上清藏口南大心院町 傳云往昔細

川頼之已來嫡流ハ管領スルニヨリテ在京レ代々此地ニ居住スト

永正四年六月細川政元ノ老臣香西又六隱謀ヲ企テ政元ノ

小臣戸倉ニ賂ヲアタエ今月二十三日ノ夜政元愛宕精進ノタメ

湯殿エ入ケル所ヲ戸倉從入テ密ニ政元ヲ刺弑ス政元今年四十

二歳法名ヲ大心院宗貞ト号ス政元常ニ魔法ヲ行フト称ソ濃

齋ス依之子孫テ其一族讚岐守元勝男六郎澄元ヲ養家督トス

畠山氏第 在衣棚突抜五辻通南 今号畠山町 其并今尚存ス

一色左京大夫第 在鳥丸今出河北東方 此所西八向室町殿花

亭東門由載應仁記

伊勢因幡守亭 在八出河北自室町西 載應仁記是義滿公近臣也

大館兵庫頭亭 在鷹司通鳥丸西 康富記云亭祿四年室町殿

姫君誕生御母儀大館兵庫頭姊故於此所誕生也

武衛義廉第 在勘解由小路 應仁記

一色詮範第 在中御門堀河 明德記

山名宗全第 在上立賣南堀河通西 号山名辻子

應仁元年五月山名持豊入道宗全其智細川勝元ト洛中ニシテ

相戰フ宗全ト勝元ハ牛角ノ敵ニテ互ニ勝負アリ自之天下大ニ

乱レテ一日モ安穩ナラス洛中洛外ノ神社佛閣此時過半灰塵ト

十九世ニ云ク應仁ノ兵乱是也

斯波亭 在室町通下立賣南武衛士町 應仁記

畠山政長亭 在万里小路春日通 同記

畠山第 在春日通万里小路 康富記 記云亨德三年八月二十

九日畠山弥三郎今日移畠山德本屋形云云

細川晴元宅 在三條猪隈 室町殿記

細川兵部少輔勝久宅 在万里小路四條南東ノ方一町富小路

イタ今富小路四條南德正寺ノ地ニシテ井水今尚アリ

康富記云寶徳二年七月十九日向細川兵部少輔屋形云云

夫故將軍家之殿館京師ニアル處尊氏公ヨリ秀吉公ニ至テ

數代及其列臣之第宅共ニ以テ何カ數十ノミナラシメ今所傳

只高嶺ノ一塊ナリ然ラ今亦子ガ管見愧ルニ堪多

山州名跡志卷之十八終

